

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第70号

交流会代表退任のご挨拶

大竹 壽利



平成27年5月より森哲前代表から代表就任を説得され、拒んではみたものの、子ども教室のあの忙殺状態から抜け出していたため、お世話になってきた交流会だけに、もうひと踏ん張りして出来るだけのことをやってみようとお引き受けしたものでした。

ところがところがです。総会前のゴールデンウィークに長期に悠々と旅行して戻ってみると、DAA 委員長の伊澤氏よりメールやら電話やらの連絡が一杯。連絡をすると会って話が見たいという。用件を聞いてもノーアンサー。嫌な予感がしましたが、ダイヤ財団でならお会い致しめようと返事。実際に会ってみると委員長の引き受け手がないという。

DAA 運営委員会は、8つの地域部会の代表により構成されていますが、任期は通常2年で、いわゆる半舷上陸方式を取っています。すなわち、私が就任した平成27年には、前年より継続の委員4名（2年生）及び私のように新規就任4名（1年生）の計8名で構成しています。6月の第1回運営委員会では継続の委員の誰かが立候補するだろうと高を括っていたのですが、当てはずれ。順番からしてダイヤかながわが引き受けて欲しいとの要請。矛盾を感じたところですが、ままと 思い切ったところでした。

皆様ダイヤかながわの会員に関わりが大きい事ですので少々この2年間のDAA 運営委員会の推移をご紹介します。27年就任時の<申し送り事項>は、4つありました。

(1) DAA 運営委員会の在り方 (2) DAA ニュース (3) DAA 交流会 (4) 新規会員獲得策 でした。

(1) は、各地域部会が活況な現況なので屋上屋を重ねるDAA は不要、会議開催も現状の半分でも良いのではとの案。一方、ダイヤ財団は、公益化に伴い、これまでとは異なり、種々のサポートを取りやめる方針。こんな悪環境の中でともかく従来とは異なる自主運営スタイルに踏み切り、成果を上げることができました。

(2) は、これまで各地域部会がその会員宛のお知らせを出して、その寄せ集めとしていましたが、これで構わないという考え。然し昨年10月の創刊100号記念にあたり、各地域部会が創意・工夫の上、読みやすい型に自主編集することとし、徐々にではありますが、評価を受け始めました。

(3) は、各運営委員の負担が大きいので、いったんお休みにしてはどうかという意見。然し全体の交流会なので活況を取り戻そうとする懸命な努力が実り、従来にないほどの大きな成

果がみられました。

- (4) は、一本釣りしかないのではとの意見。然し、退会者と入会者のバランスがどんどん崩れ、会員数の減少が目立ってきている。①銀行・東京海上・化学等が、OB会への働きかけを志向しました。②ダイヤ財団のHPにDAAの広報としてご案内が掲載されることとなりました。これらが会員獲得策に繋がるかは今後の努力次第かと思えます。

このようにDAA運営委員会は日増しに活動の幅を広げることができました。パワフルな委員会へと変身できたところです。あとは、各地域部会の代表が運営委員になるのみではなく、専門委員をおくとか事務局機能を備えるとか予算をつけるとか更に前進への方法は色々あるかと思えます。他に例のない素晴らしい組織です。今後とも在り方につき検討していくことが大事かと思えます。

こと私に関しては、ダイヤかながわ交流会が順調に推移しており、「交流会」としての楽しさにあふれ、また社会参加ないしは社会貢献活動として「子ども教室」が素晴らしい成果をあげているという背景があったお陰で真剣にDAAに取りかかれたものです。かながわ交流会会員諸氏の積極的な参画、そして運営委員の率先垂範の努力に感謝するところです。再び運営委員になることはありませんが、素晴らしい仲間とともに活動できたことは楽しい思い出であり、もう一度やってみたいという心境にさえなるところです。皆様、たいへんにありがとうございました。

<かながわ子ども教室> (勝浦)

平成28年度(28年4月-29年3月)の教室活動の要旨は以下の通りです。

① 教室開催回数と参加者 (カッコ内は平成27年度データ)

以下の通り、28年度は前年度に比べ開催回数は若干増加いたしました。暮らしの教室が大幅に増え、科学教室が若干減少しました。生徒・学生の参加者数は、教室が若干増加、フェスタは減少となっています。

子ども科学教室が113回(121回)、子ども暮らしの教室が26回(11回)、合計139回(132回)でした。この他に各地で開催されたフェスタに6回(7回)参加しました。これを加えると145回(139回)になります。参加者は当会員が延945人(938人)、小中高学生参加者が延5,596人(5,633人)《内教室が3,853人(3,688人)、フェスタが1,743人(1,945人)》、その他参加者(保護者等)が1,859人(3,613人)でした。長崎で開催されたねんりんピックは、会場の立地条件が悪く、参加者は例年に比べ、大幅に減少しました。一方、川崎市青少年フェスタでは、参加者が過去最高になりました。

28年度特記すべき事項としては、昨年に引き続き、鳥が丘小学校で正規授業として9コマの授業を担当したことです。4年生、5年生、6年生の全クラスに、それぞれ「宇宙教室」、「日本の食べ物教室」、「お金教室」を3日間にわたって行いました。また、新たに逗子市立小坪小学校でも、PTA主催の5年生授業で、「気象教室」を2クラスに行いました。

●新しい教室(教科)

平成28年度は休止中の2教室「まわれ!浮沈子(子ども水族館を改称)」及び「私たちと水」がリニューアルして再開されました、順調に展開されています。新しい教科の開設は、当かながわ子

ども教室のエネルギーの維持・向上に大きく貢献するものです。現時点では科学教室16教室、暮らしの教室5教室、合わせて21教室体制となっています。

② 委員会

実行委員会及び予算委員会をそれぞれ毎月開催（8月の実行委員会は台風のために中止し、メール等で確認）した他、ホームページ検討会をかながわ県民サポートセンターの会議室で開催しました。（延573人参加）

③ 外部への展開

NPO法人きらめきライフ多摩との連携は順調に推移しています。下記の「ねんりんピック長崎2016」では、共催という形で当教室のブース内に「水族館」の出展を頂きました。29年9月開催予定の「ねんりんピック秋田2017」にも、同様の体制で参加する計画です。